

多賀城市震災復興計画の骨子（震災復興構想(案)）【要約】

- 市民意見交換会 -

- 1 日時
平成23年8月10日（水）15：00～17：00
- 2 場所
ホテルキャッスルプラザ多賀城 2階大広間
- 3 出席した構成員
菊地市長、鈴木副市長兼総務部長、菊地教育長、佐藤上水道部長（水道事業管理者）、菅野市長公室長兼会計管理者、永澤市民経済部長、内海保健福祉部長、佐藤建設部長、鈴木副教育長、鈴木震災復興推進局長、竹谷総務課長
- 4 事務局職員
鈴木市長公室震災復興推進局長 熊谷参事、佐藤副主幹
- 5 意見交換コーディネーター
東北学院大学教養学部 柳井雅也教授
東北学院大学教養学部 宮城豊彦教授
- 6 主な発言内容
 - ・司会進行者挨拶：震災復興推進局 熊谷参事
 - ・開会挨拶：菊地市長
 - ・意見交換会関係者の紹介：震災復興推進局 熊谷参事
 - ・多賀城市震災復興推進計画の骨子（震災復興構想(案)）：震災復興推進局 鈴木局長
意見交換会として意見のある6の方が挙手し、意見者として確定
その後、コーディネーター柳井先生により、意見交換会開始

意見交換の内容は以下のとおり。

1番 意見者

質問1 津波被害区域に来訪時被災しました。宮城県に確認し、防災装置による報道時間を聞きましたが、多賀城市では広報されませんでした。これはどういうことですか。

また、市の防災計画で13基の9千万円となっている予算が2千9百万円に削られています。なぜ計画通り進められていないのですか。

質問2 財政担当課に先日確認したところ、教育や防災などより、「史都」の観光などに整備費用がかけられているようです。（意見者手元メモにより詳細額を説明）観光目的に投資しているならば、集客率などの結果を報告すべきだと思います。

1番 回答

回答1 震災当時の防災装置は、NTT回線を利用するものでしたが、停電により広報が出来なくなり、市の広報車で回ることとなりました。

また、今回の震災を受け、本計画に先行して無線広報装置の整備を進めて

います。

回答2 史跡等の整備については、そのほとんどを国費(補助金)で行っています。市の単独費などは少ないと認識しています。(質問者が後日、来庁して確認するとのこと。)

また、雨水対策事業などにも財源を投入しています。

2番 意見者

質問1 多賀城市がこんなに海が近くにあると思いませんでした。仙台港からの津波対策について、宮城県、仙台市との連携はどうなっていますか。

質問2 復興構想の内容について、計画期間10年となっていますが、いつ、何を、どのタイミングで実施するかを考えてください。

質問3 今回の震災では、消防や警察の方々の活躍もありましたが、防災意識の向上については、地域の消防団などの表現も加え、その充実を図ることが必要だと思えます。

質問4 末の松山までは津波が来なかったことを紹介するようにして欲しいです。

2番 回答

回答1 仙台市との連携協力については、現在行っております。仙台港からの津波対策については、港湾管理者である宮城県に対して要望していきます。

回答2 本日の骨子については、一定の期間(8月25日まで)にご意見等を伺い、10月にはタイムスケジュールなどを入れた復興計画(案)をご提示することとしています。

回答3 現在の消防団は高齢化などの課題がありますが、地域・コミュニティの強化の一つとして消防団充実も考えていきたいと思えます。

回答4 市民の方のみが本市で被災したわけではなく、来訪者や移動している方々も被災されています。このため、避難ルートの設定や避難ビルなどを案内する案内板の設置を考えていきます。

宮城先生から

最初の質問者の方のお話しですが、仙台港の今回の津波被害については、堀込式ということでの被害ではないことが判明しています。

しかしながら、(被災された皆さまもそうだったのではないかと思うのですが、)今回のような津波が来るとは考えもしていませんでした。

現在、宮城県では海岸に防波堤の設置を検討しております。国の調査では、2mを越える波で家が壊れるという結果が出ています。また、多賀城市の被害の多くが、車やガレキによる流出で壊れたものが多いことから防災林によって防ぐことを提案しています。

3番 意見者

質問1 医療についてですが、仙塩病院が利府に移転すると聞きました。多賀城市では医療機関をどう考えているのですか。

質問2 アンケートの回答数が、5千世帯の配布数の半分程度であったことが意外

でした。市でも、本当はもっと多い回答を想定していたと思いますが。居住意向の質問に対しては、現在地での再建という回答が全体として多いようですが、宮内地区ではどうですか。

3番 回答

回答1 仙塩病院の移転については、震災前に確定していました。多賀城市としては、なんとか残っていただきたいと協議してきましたが、このような状況となりました。市内において、病院・医者不足にはならないと考えています。

回答2 アンケート回答率が50%程度というのは少なかったと感じています。また、地域毎に数値を分析しておりますが、宮内地区において現地再建を希望する方は、全体の割合に比べて少ないものでした。この結果は、今後ホームページ等で報告させていただきたいと思います。

4番 意見者

質問1 先生に質問です、津波の深さは最大どの程度だったのでしょうか。また、実際多賀城市はどのような方向からの津波を受けたのでしょうか。

質問2 仙台港のほうから波が来たとのことですが、防災林はなかったのでしょうか。

質問3 防潮堤の高さはどの程度なのでしょう。

質問4 代替地は考えられているのでしょうか。また、考えているのであればどことされているのでしょうか。

質問5 雨水整備を実施したとの回答がありましたが、あまり進んでいるように思えませんが。

質問6 多賀城市では、災害危険区域を指定するのでしょうか。国の補助金はどういうことより、多賀城市がどうするのかを聞かせてください。

4番 回答

回答1 津波による深さ（浸水深）は、4mで、内陸1kmほどいくと3m程度でした。また、今回の津波は3方向（港のフェリー方向、仙台港の倉庫の脇、貞山運河方向）に対し、仙台港の倉庫の間から来たものとされます。

回答2 仙台港からの津波に対する防災林はありませんでした。また、防災林は、根がしっかり入っていないものでは意味がありません。地下水面より高い所に樹木を植え、車やガレキの流出を防ぎたいと考えています。

回答3 いまのところ、防潮堤はT.P8mに対応するもので、コンクリートで数mのものを検討しています。また、他都市では防潮堤が破壊されましたが、これは地域毎に破壊の状況が異なることに起因します。また、多賀城市については、多重防御として高圧線下を利用することとしています。

回答4 今後の居住意向については、代替地を希望される方に対しては市内の土地を斡旋していきたいと考えています。いろいろな手法がありますが、現行の制度（国の制度）は、多額の個人負担が発生する可能性が高く、新たな土地（開発地）を用意する方法では相当の時間を要することとなるため、住宅再建にあまり寄与しないのではないかと考えています。

回答5 雨水整備についてはこれまで鋭意進めてきていましたが、整備率は50%程度です。今後、工場地帯や宮内地区などについては、インフラ整備と表現しましたが、雨水を初めとした整備を進めていくことにしています。

回答6 現地での再建を基本としているので、災害危険区域の指定は想定していません。また、一つの地域であってもいろいろな考えがあると思いますので、今後、いろいろと調査した上で考えていきたいと思います。

5番 意見者

質問1 明月地区は、構想イメージ図で白抜きですが、ここは家が建てられないということですか。

質問2 家を再建したいが、構想図の左の方に新たな居住地とありますが、これはどういうことですか。

5番 回答

回答1 表現上、白抜きですが、多賀城市では現地での再建を基本としていることから、家が建てられないというゾーン指定は考えていません。

回答2 災害公営住宅を考えていきたいと思っています。

6番 意見者

質問1 宮城県沖地震から30年経ちましたが、これに対応した上での計画ですか。

質問2 企業に対する対応などが表現されていますが、多賀城にいるメリットを伝えているのでしょうか。

質問3 災害が起こった後の対応についての表現が必要ではないですか。避難させた後の避難所や仮設住宅などいろいろのことがあると思いますが。

質問4 以前、市民ミュージカルで貞観地震をやっていました。このことも踏まえれば、防災教育や津波の伝承は必要と思います。

質問5 復興の内容については、スピードが必要なものと、時間を要するものがあると思います。急ぐものは早くトップダウンで進めてほしいです。

6番 回答

回答1 学校施設の耐震補強については、今年の2月に完了していました。また、一部の社会福祉施設で残っているものもありますが、ほとんど完了しています。

回答2 企業への取組については、企業が再生するための相談や制度紹介をしております。また、東京を本社としている企業などについては、市長が訪問して説明しており、今後、市が企業と一緒に実施できる方策について、協議を進めています。県外企業からも、是非雇用問題に対応させていただきたいという意向もあることから、一層の連携を図っていきたいと思っています。

回答3 被害後の対応については、防災計画を見直すことにしております。

回答4 早急な対応が必要なものについては、この復興計画とは別に、無線広報装置の整備などを進めています。また、計画の実施については、時間軸を定めて進めていきます。

7番 意見者(4番の意見者再度)

質問1 これから再建したいですが、危険だということであれば早めに決めて欲しいです。

質問2 計画が策定されても、先ほどの雨水対策と同様に50%の整備では困ります。出来なければ意味がないので、本当にできるものとして欲しいです。

7番 回答

回答1 危険区域の指定は、想定していません。

回答2 策定したものを整備してまいります。

6. 閉会挨拶 鈴木副市長

- 市民意見交換会 -

- 1 日時
平成23年8月10日(水) 19:00~20:00
- 2 場所
ホテルキャッスルプラザ多賀城 2階大広間
- 3 出席した構成員
菊地市長、鈴木副市長兼総務部長、菊地教育長、佐藤上水道部長(水道事業管理者)、菅野市長公室長兼会計管理者、永澤市民経済部長、内海保健福祉部長、佐藤建設部長、鈴木副教育長、鈴木震災復興推進局長、竹谷総務課長
- 4 事務局職員
鈴木市長公室震災復興推進局長 熊谷参事、佐藤副主幹
- 5 意見交換コーディネーター
東北学院大学教養学部 柳井雅也教授
東北学院大学教養学部 宮城豊彦教授
- 6 主な発言内容
 - ・司会進行者挨拶：震災復興推進局 熊谷参事
 - ・開会挨拶：菊地市長
 - ・意見交換会関係者の紹介：震災復興推進局 熊谷参事
 - ・多賀城市震災復興推進計画の骨子(震災復興構想(案))：震災復興推進局 鈴木局長
意見交換会として意見のある6の方が挙手し、意見者として確定
その後、コーディネーター柳井先生により、意見交換会開始

意見交換の内容は以下のとおり。

1人の方が挙手し、市へ質問。

1番 意見者

質問1 復興計画の骨子について基本理念等は分かりましたが、そもそも今回の災害はどうすれば防げたと考えていますか。

1番 回答

回答1 今後、防災計画の見直しが必要と考えていますが、国との歩調を合わせる必要があるため、今後時期をみて見直しをしていきたいと考えています。復興計画は10年スパンで考えているが、復旧だけではなく「プラス」へ転換できるような取り組みをしていきたいと考えています。

宮城先生から

・個人的見解ですが、今回、地震に対しては我々が取組んできた防災対策について一定の効果はあったと考えます。ただ、(新幹線や建物の被害など)が、津波だけは想定をはるかに超えるものでした。

- ・市の復興計画では２段階の対策を考えています。数十年規模の津波に対しては生命と財産を守る、千年規模の津波に対しては生命を守る、という考え方です。
- ・千年規模に対しての津波に対しては、数千年先の科学がどれほど進むか分からず、物理的に不可能だという理由により、少なくとも生命だけは守るという考え方になっています。
- ・ハード対策としては、防災林などで浸水深を下げ、ガレキを止める機能を持たせ、住民は「逃げる」、行政は防災体制を整える、という減災の考え方が重要だと思います。
- ・先日、国交省の記者発表資料で浸水深 2 mを超えると被害が甚大であるという結果が発表されましたが、樹木は 3 m程度まで持ちこたえます。
- ・津波を物理的に完全に止めることは不可能であることを認識したうえで、多賀城工場地域でもこうした防災林（森）を造ることに協力をお願いしたいです。

２番 意見者（柳井先生からの指名）

意見 1 宮城先生提案の防災林は良案だと思いますが、仙台港を守るためには多賀城だけで取組んでも効果が薄いため、仙台市と協力体制をとり、一体的な取り組みが必要だと考えます。

２番 回答

回答 1 津波には行政界がなく、仙台市側から回り込むことは十分考えられます。こうしたことも踏まえ、現在、仙台市と協議を進めているところです。また、港湾施設の防御施設構築についても、一緒になって県へ働きかける予定です。

菊地市長から

- ・震災前までは、仙台港での津波被害は軽度なものと想定していましたが、今回の津波は想定を越えるものでした。防災林なども含め、仙台港での防御策がとても重要であることを再認識しました。

３番 意見者（１番意見者再意見）

意見 1 今回の震災で不安、不満に思ったことは、情報が無かったということです。そういう意味では復興計画にあったFM局の設置というのも重要であると思います。今回の震災を踏まえ、今後はきめ細かい情報提供をお願いします。

6 . 鈴木副市長 閉会の挨拶